

| | | | | |
|--|--|--------------------------------|-----------------------------|--|
| 6 その他 (主要5件以内) | 2021年度 | 教員免許状更新講習第Ⅱ期対面講習(北海道教育大学釧路校会場) | | |
| | 2021年度 | 教員免許状更新講習第Ⅱ期対面講習(帯広商工会議所会場) | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 研 究 業 績 | | | | |
| 1 研究分野・活動 (記述式:350字以内) | <p>これまでは、児童生徒の問題行動について、発達差・性差に視点を置いて研究してきた。現在、最優先事項として取り組んでいる博士論文では、(1)児童生徒の自傷行為の実態と関連要因の再考、(2)養護教諭及び一般教師の児童生徒の自傷行為に対する認識と対応、について調査・検討している。発達差や性差に視点を置いて、児童生徒の自傷行為に対して、養護教諭や一般教師はどのような認識をもち、対応をしているのかを検討している。</p> <p>前任校のゼミナールは、学生各々が興味関心に合わせてテーマ設定をしたため、内容はモンテッソーリ教育、乳児とスマートフォン、発達障害児の育児等、多岐にわたった。</p> <p>この他には、『ハイジ アルプスの物語』『僕の名前はズッキーニ』等の映画をもとに、精神疾患、発達上の問題や心理、社会的養護等について授業等で解説した。</p> | | | |
| 2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む) (記述式:350字以内) | <p>(1)「児童生徒の自傷行為の発生要因と保健室を中心とした学校対応」 上記タイトルの博士論文の受理の可否は近日中に見通しがつかず、可否にかかわらず、今後は研究から得たデータと考察をあらためて論文化し、学術誌に投稿する。発達に視点を置いた児童期青年期の問題行動研究は今後も進めていく。</p> <p>(2)絵本研究 新たな研究課題は、「絵本」「発達」をキーワードに検討している。 まずは新年度のゼミナールで、学生に絵本の読み聞かせのスキルを身につけてもらう。可能であれば読み聞かせ活動を行う。その先のゼミナール活動は学生の興味関心に合わせて進める。 個人としての具体的な研究課題は検討中だが、たとえば、①幼児期の読み聞かせ経験と心理/進路への影響 ②読み聞かせの現場における絵本の選定方法の比較、③学生の絵本志向と絵本経験、等が考えられる</p> | | | |
| 3 研究助成等 (主要5件程度) | <p>(1)文部科学省科学研究費</p> <p>(2)学内</p> <p>(3)学外 平成23年度科学研究費補助金(奨励研究)日本学術振興会</p> | | | |
| 4 資格・特許等 (主要3件以内) | <p>資格:2003年9月 養護教諭専修免許状(平14養専修第0010号・北海道教育委員会)</p> <p>資格:2004年7月 小児MFAインストラクター(200664・Medic First Aid社)</p> <p>資格:2021年2月 公認心理師</p> | | | |
| 著書、学術論文、作品等の名称 (主要15件以内) | 単著 共著 の別 | 発行又は発表 の年月 | 発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称 | 要 約 |
| (著書) | | | | |
| 思春期の発達とこどもの問題 | 共同執筆 | 2016年 | 札幌子ども・若者白書 | 思春期の思考の発達が、自己肯定感や自尊心の低下にどのように影響するのかについて述べた。さらに思春期の発達に関連して自傷・自殺等の内的攻撃性による問題行動について指摘し、教育のあり方について提言した。 (加藤弘通・穴水ゆかり) |
| 子どもの成長を支える発達教育相談 | 共著 | 2017年 | 北樹出版, | 自傷対応において重要なのは自傷をやめさせることではなく、本人が抱えている問題や困難の軽減であると説明した。最後に、本人や周囲の子どもたちが大人に援助を求められる関係性を日頃から築いておく必要があると述べた。 (コラム「自傷行為とその対応」を担当) |

| | | | | | | | |
|--|-----|------------|-------|---|---|--|--|
| (学術論文) | | | | | | | |
| 自傷行為の視点から見る高校生の心性 (第1報) (査読付) | | 共著 | 2010年 | 思春期青年期精神医学 20(1) | 高校生を対象に質問紙調査を行い、自己切傷経験者の心性の検討を試みた。その結果、自傷経験は生徒の9.5%で女子では男子の2.6倍みられた。自傷生徒の依存形成の生じやすさや精神的脆弱性に対する広い理解と、支援方法の開発を急ぐ必要があると考察した。 (穴水ゆかり・田中康雄) | | |
| 自傷行為の視点から見る高校生の心性 (第2報) (査読付) | | 共著 | 2010年 | 思春期青年期精神医学 20(1) | 高校生を対象に質問紙調査を行い、自傷経験者の心性の検討を試みた。その結果、重篤化、習慣化、嗜癖化した自傷行為と解離傾向との密接な関係等が示された。また、集団生活や家族・家庭環境に充実感をもつ自傷経験者からは、対他的過剰適応傾向の強さが示唆された。 (穴水ゆかり・田中康雄) | | |
| 自傷行為の視点から見る非行化した少年の心性 -自傷行為の視点から見る高校生の心性・第3報- (査読付) | | 共著 | 2011年 | 思春期青年期精神医学 21(1) | 高校生と少年院在院者の質問紙調査データを比較検討した。その結果、高校生と少年では自傷へ至る経過や、解離にかかわる特性が異なる可能性が考えられた。結果をふまえ、安岡(2008)による「手首自傷の症状機制」モデルに検討を加えた。 (穴水ゆかり・田中康雄) | | |
| 教育現場における自傷児童生徒支援の課題について -文献レビュー- (査読付) | | 共著 | 2017年 | 北海道大学大学院教育学研究院紀要 129 | 学校現場の自傷支援において検討すべき課題を示した。自傷行為の定義や実態は研究により大きな幅があること、このために見逃される自傷がある可能性があること、教員は自傷の背景にある問題に気づき対応することが重要であること、今後は教員への実態調査や、発達差に留意した研究が必要であること等を指摘した。 (穴水ゆかり・加藤弘通) | | |
| 高校生における自傷行為とその背景要因の検討 -学校環境、家庭環境、過剰適応傾向の観点から- (査読無) | | 単著 | 2021年 | 釧路短期大学紀要 48 | 高校生の自傷経験とその方法に主眼を置き、背景要因について検討した。自傷念慮及び複数回の自傷経験には親・保護者との関係がネガティブに影響した。女子は自己切傷、男子はより周囲から発見されにくい「殴る」自傷のリスクが高かった。 | | |
| (その他) | | | | | | | |
| COVID-19 感染拡大期における施設保育実習及び学内実習に関する一実践 | | 単著 | 2022年 | 釧路短期大学幼児教育学実践報告書第4号 | COVID-19 感染症流行に伴い、多くの福祉施設では実習生の受入が中止になった。このため半数以上の学生が実習期間を短縮することになったため、実習の代替として学内で授業等を行った。そのカリキュラムを紹介・報告した。 | | |
| 学生は施設実習で何を学び得たのか -COVID-19 感染拡大期における実習後のアンケート結果から- | | 単著 | 2022年 | 釧路短期大学幼児教育学実践報告書第4号 | 感染症流行の影響により、実習期間や内容を大幅に変更した2020年度の施設保育実習について、学生に対する調査から、学生の学びの成果と指導の課題について検討した。今後の課題として遠隔による授業内容の充実等が考えられた。 | | |
| (翻訳) | | | | | | | |
| 「発達心理学再入門ブレイクスルーを生んだ14の研究」 (監訳：加藤弘通・川田学・伊藤崇 担当：『12 攻撃性：バンデュエラのボボ人形研究の再検討』) | | 共訳 (分担) | 2017年 | 新曜社, Lansford JE.: Aggression: Revisiting Bandura's Bobo Dolls Studies. In Slater AM., & Quinn PC. (Eds.) Developmental Psychology revisiting the classic studies, SAGE, 176-190, 2012 | 監訳：加藤弘通・川田学・伊藤崇 担当：「12 攻撃性：バンデュエラのボボ人形研究の再検討」 最初にバンデュエラの「ボボ人形研究」の概要を説明し、本研究が攻撃性の発達研究に与えた影響の他、本研究の倫理的問題や妥当性等に対してのちに生じた疑問や批判についても議論した。最後に研究の意義について述べた。 | | |
| 研究業績 (過去3カ年分) | | | | | | | |
| 著作数 | 論文数 | 学会等 発表数 | その他 | 国際的活動 の有無 | 社会的 活動の 有無 | | |
| 0 | 1 | 0 | 2 | 無 | 有 | | |

| 学 内 運 営 業 績 | | |
|--|-----------------------|---------------------------|
| 1 役職、各種委員会等 (主要 10 件程度) | 2021 年度～ | 図書委員会 |
| | 2021 年度～ | 学生・地域国際交流委員会 |
| | | |
| | | |
| 学 外 活 動 業 績 | | |
| 1 本学以外の機関(公的機関・民間団体等)を通じた活動 (主要 10 件程度) | 2019 年度～2020 年度 | 北海道教育大学附属釧路小学校 スクールカウンセラー |
| | 2019 年度～2021 年度 | 釧路市立高等看護学院 スクールカウンセラー |
| | 2019 年度～2021 年度 | 北海道霧多布高等学校 スクールカウンセラー |
| | 2020 年度 | 釧路まりも学園 心理判定員 |
| | 2020 年度 | 釧路子ども読書活動推進計画策定委員会委員 |
| | | |
| 2 学会・学術団体等の活動 (主要 10 件程度) | (1)学会・学術団体等役職 | |
| | 2003 年 3 月～2006 年 8 月 | 日本学校保健学会会員 |
| | 2003 年 3 月～2008 年 8 月 | 日本思春期学会会員 |
| | 2008 年 3 月～現在に至る | 日本思春期青年期精神医学会会員 |
| | 2014 年 4 月～現在に至る | 日本学校保健学会会員 |
| | 2014 年 4 月～現在に至る | 日本思春期学会会員 |
| | 2016 年 2 月～現在に至る | 日本教育心理学会 |